



ベルギー在住の二人の音楽家による

「大阪母子医療センター」の難病治療研究「こども未来事業」への寄付のための

チャリティーコンサート 響きの軌跡

～ピアノと笙と箏で辿るフランドル・ルネサンス期から現代へ～

ピアノ・笙 西原 暁子
箏 佐藤 亜貴

2026年 7月12日 (日)

13時30分 開場
14時 開演

入場無料

堺市立 梅文化会館

大阪府堺市南区桃山台2丁目1-2 (南海泉北線「梅・美木多」駅下車すぐ)

お問い合わせ 072-299-7291 (西原) akikotopiano@proton.me

会場入り口にて募金箱を設置しますので、一口500円からのご協力をお願い致します。
プログラムの曲を多数収録した新作CD
「響きの軌跡～ピアノと笙と箏で辿るフランドル・ルネサンス期から現代へ～」もお求め頂けます。



15世紀の写本より「めでたし 愛しく けがれなき方」/作曲者不詳
千々の悲しみ/ジョスカン・デ・プレ
第1クラヴサン組曲より アンダンテ/ヨーゼフ・ヘクトル・フィオッコ
第3クラヴサン組曲より サラバンド/ジャン・バプティスト・ルイエ
悲愴ソナタ第2楽章 アダージョ カンタービレ/ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン
控えめな小さな花/ロードヴェイク・モルテルマンズ
アラベスク第1番/クロード・ドビュッシー
ベルガマスク組曲より 月の光/クロード・ドビュッシー
3つの間奏曲 作品32/クリス・ウイトル
六段の調べ/八橋検校
荒城の月/滝廉太郎
松尾芭蕉の「奥の細道」によるパラフレーズより
「落ち来るや 高久の宿の ほととぎす」/柏木俊夫
笙と箏のための 蜃気楼/西原暁子
都合により、曲目が変更となる場合がありますこと、
予めご了承ください。

このコンサートは、駐日ベルギー大使館より、
日本とベルギーの友好160周年記念行事として
認定されています。



西原暁子

堺市出身。大阪府立泉陽高校卒業。大阪教育大学教養学部音楽コース器楽専攻ピアノ科卒業。同大学院修了。第三十回堺市新人演奏会にて堺市長賞を受賞。ピアノを伊牟田志真、出口美智子、宇治田迪世、深美裕子、田中絃二、武田牧子の各氏に師事。国際ロータリー2640地区、堺泉北RCより国際親善奨学生として、ベルギーブリュッセル王立音楽院へ留学し、ピアノをヤン・ミヒールス、室内楽をヴィヴィアン・スパノールへ、歌曲伴奏をインゲ・スピネットの各氏に師事し、修士課程修了。二〇〇四年より笙の演奏に取り組み、佐藤尚美氏から笙の指導を受ける。CD「鐘と梵鐘の響き」と「陰陽五行音絵巻」以来、独自の視点から西洋と日本の音楽の架け橋となる活動が続いている。

佐藤亜貴

大阪狭山市出身。6歳より尼川千秋師、後に人間国宝故菊原初子師、菊原光治師、故菊津木昭師に箏・三味線を学ぶ。1989年大阪音楽大学 音楽学部 器楽科 箏専攻卒業。生田流箏曲師範、野川流三味線師範。令和7年、外務大臣表彰を在ベルギー日本大使館において受賞。ベルギーを始め、ヨーロッパ各地で様々な楽器とのアンサンブル等、演奏活動に取り組む。

～二度に渡る、健康上の危機を最高水準の治療のお陰で乗り越えさせて頂いた感謝と

今、闘病中の方とそのご家族への励ましとなるようお願いを込めて～

8歳の時に、急性の腎不全で大阪の千里救命救急センターに運ばれ、その後、大阪市立小児保健センターで中川喜美子先生に主治医として、大変お世話になりました。中川先生の献身的な治療のお陰で、完治することができたのでした。けれども入院当時は、「私は大人になれるのかな」と誰にも聞くことのできない、子どもなりの不安を持っていたことを覚えています。そんな時、小児保健センターの「2の東」病棟のピアノ好きの看護婦さんが、「元気になったら、ショパンの英雄ポロネーズを弾けるようになって、聴かせてね」と、励ましてくださったことを覚えています。10か月の入院期間の終わりごろには、「すぎのこ学級」という院内学級へ何度か通わせて頂くことができました。

ブリュッセル王立音楽院の修了演奏試験の直前には、左肘の粉碎骨折してしまい、手術の麻酔から目が覚めた時、どこの病院に運ばれているのかも分からない中、近くのチャペルの鐘の響きが「時間は既に前に、回復の方向へのみ進んでいる」ことを知らせてくれたのでした。なぜピアノの学生の私が、肘を骨折することに？と絶望の中、希望をもたらしてくれた「鐘」をテーマに、一年延期となってしまった、修了試験のプログラムを組み直しました。肘を完全に伸ばしたり、肩に届くほどには曲げられない後遺症は少し残りましたが、ピアノを弾くには全く問題がなく回復できたことを、手術を担当して下さった正富隆先生を始め、ベルギーと日本の最高の先生方と作業療法士の方々へ感謝しきれません。

大阪母子医療センターの「子ども未来事業」への寄付

大阪母子医療センターでは、親から子どもへ世代をつなぐよりよき未来のための母子医療研究が行われています。研究所は1991年の開設以来、周産期及び小児期における疾患の原因解明と治療法の開発をめざす専門研究機関としての活動を続けています。母子医療は成人に対する医療に比べて原因不明疾患や難治性疾患が数多くありますが、研究費が著しく不足しています。この領域の研究を最新の技術によって推進するには研究資金の確保が必要とされています。大阪母子医療センターのウェブサイトより引用

<https://www.wch.opho.jp/center/activities/kodomomirai.html>

チャリティーコンサート「響きの軌跡」では、このコンサートでの募金の全額と、コンサートでの演奏曲目を多数収録した新作CD「響きの軌跡」の売り上げ金の20%を、大阪母子医療センター研究所の「子ども未来事業」という「原因不明の運動発達遅滞」「流早産（不育症）」「骨疾患及び成長障害」「神経系の形成異常」「先天性代謝異常症」「外科治療が必要な先天性疾患」などの小児難治性疾患と周産期疾患への研究資金として寄付致します。

「響きの軌跡」チャリティーコンサートへ、ご支援頂ける企業や団体、個人の方のお名前やロゴをコンサート当日に来場者へお配りする、プログラム解説パンフレットへ掲載させて頂くことができます。

ご支援を頂ける場合、akikotopiano@proton.me までメールでご連絡頂けますよう、よろしくお願い致します。

後援：国際ロータリー第2640地区 堺泉ヶ丘ロータリークラブ